



イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：803千円

SUACアートの最前線3days

目的・趣旨

浜松市に新しい類型のアート拠点が近年増えてきた。市立の鴨江アートセンターとゆりの木通りにある民間の立体駐車場・万年橋パークビルなどである。これらの新拠点とSUACの関係は、本学教員が個人的につながっていたものの、組織的にはきちんと連携していなかった。

そこで、今回本事業でアートと「都市観光・多文化共生・空間再創造」の密接な関係を取り上げ、浜松市の今日的課題を浮き彫りにすることを狙い、アート新拠点と本学との関係を強化し、学生の教育や各学科教員の協働に役立てる。

日時・場所

平成30年11月30日から平成30年12月2日
静岡文化芸術大学・講堂、浜松市鴨江アートセンター、万年橋パークビル

体制

(実施代表者) 文化政策学部 芸術文化学科 教授 松本 茂章
(実行委員会) デザイン学科 准教授 天内 大樹、副学長・国際文化学科 教授 池上 重弘、芸術文化学科 講師 井上 由里子、デザイン学科 准教授 岩崎 敏之、芸術文化学科長・芸術文化学科 教授 梅田 英春、文化政策学科 教授 加藤 裕治、大学院文化政策研究科長・国際文化学科 教授 下澤 嶽、芸術文化学科 准教授 高島知佐子 (50音順)

内容

国際文化、文化政策、芸術文化、デザインの全4学科の本学教員で構成した実行委員会を発足させ全学体制を組んだ。大学と地域をつなぐ試みにしたいと心掛けた。学科の壁を取り払い、両学部学生も参加できる内容にしたいとも考えた。さらに同時期に日本アートマネジメント学会第20回記念全国大会が本学で開かれることを意識して、3日間のシンポジウムを企画した。初日の11月30日(金曜)は「都市観光とアートマネジメント」(鴨江アートセンター)、2日目の12月1日(土曜)は「多文化共生とアートマネジメント」(本学講堂)、第3日目の12月2日(日曜)は「空間再創造とアートマネジメント」(万年橋パークビル)と題して開催した。3日目はゆりの木通りのまち歩きも合わせて行い、地域との交流を実現できた。



結果・成果

アートマネジメントをかがり系にして、「観光」(映画ロケ誘致による都市プロモーション)、「多文化共生」(自治体、芸術家、NPO法人による取り組み)、「空間再創造」(古いビル等の活用策)の専門家を招き、熱っぽい議論を繰り広げた。東北から九州まで広範囲な実例を知ることができた。同学会も含めた3日間の参加者は計490人と予想を上回り、3daysだけで205人に達した。内訳は一般102人、学会員103人で、相乗効果がみられた。学生40人以上が協力してくれた。本学に加えて鴨江アートセンター、万年橋パークビルという2つの文化拠点を会場に選んだことも奏功した。両者の交流実績はそれほどなかったそうだが、本事業によって同センターと同パークビルの交流を推進できた。

年度末にはウェブで地図づくりを実施。学生らが作成に参加した。浜松市に点在する文化資源の紹介に努め、今後多方面で活用されると期待される。

実行委員会に加わっていただいた全学科の先生方、および協力して下さった関係者のみなさまに御礼申し上げます。学科の壁を越えて交流したことで多くの刺激を得られ、実に得難い経験を重ねることができた。3days事業を突破口に今後も何かを始めてみたい。